

想人 OMOIBITO

生徒インタビュー



当時と今の事、教えてもらいました。

06 interview



渡辺 空さん

世界に知られるいい町になってほしい。
ふくしま・ふたばを愛する人がいる。

現在学んでいること

ふたば未来学園では、学校の授業だけではなく校外の活動でも地域の人たちと交流しながら、町の課題の解決に向けて取り組んでいます。私が所属しているスペシャリストコースでは、授業の中で実習を行うことが多いです。校内には、農業であれば畑や温室、大きなキッチンが、福祉のコースであればベッドや車椅子、お風呂などがあり、将来に向けて学ぶのはもちろんのこと、その施設を地域のために利用することもあります。また、探究活動で地域の課題やまちづくりと向きあう中で学ぶことも多いです。その中で新しい双葉郡のシンボルをつくることになり、最初は壁画アートの制作を考えていました。しかし、その計画を聞いてくださった方から「ただ新しいものをつくるだけでは自己満足になってしまう。それよりも地域の人たちも参加しやすい活動の方が必要とされやすいと思う」と意見をいただき、まちづくりとは何か自分の中で考え直す機会になりました。今はその意見も参考に、町の人たちとメッセージカードと共に花を植えてフラワーアートを作ろうと計画中です。授業以外でも地域の人と交流する機会は多く、ボランティアやスポーツ体験など、地域で行われる活動のお知らせが学校に届きます。過去に「双葉町プロジェクト」という活動に参加しました。これは双葉駅前に住宅街をつくる計画について自分の意見を企画する活動で、お年寄りの方を中心にさまざまな人から意見を伺いました。その中で古くから双葉郡に住んでいる人たちの話を聞いて、震災や双葉郡へのイメージも大きく変化しました。今までは震災や復興についてあまり興味がなかったのですが、この学校に入って考えが変わってきたと思います。もっと地域や震災のことについて知りたいと思うだけでなく、震災の被害や教訓が忘れ去られることのないように、その上で今までの負のイメージを変えられるようなまちづくりをしたいと思っています。

これからの活動

高校を卒業してからは、パティシエの専門学校に進学しようと考えています。実は、初めは孤児院で働きたいと思っていて、パティシエになることは考えていませんでした。高校で農業を勉強することにしたのも、ただ楽しそうだからという理由です。しかし、農業やお菓子作りを勉強するうちに、関心がより強くなりました。そこから今の進路へと決めるきっかけになったのは、探究活動で聞いた先輩の活動発表です。さまざまな食材が風評被害を受けていること、それを解決するべく行っている活動について知って、私もその課題を解決できるようになりたいと思いました。以前、ふたば未来学園でゆずを使用した特産品をつくり販売したところ、生徒が作ったことがきっかけで買ってくださった方がいたんです。その経験から風評被害があってもきっかけがあれば手にとってもらえると知りました。卒業後は、福島から出て、その中で風評被害を受けている食材を使ったお菓子を作り広めることで、世界から風評被害を減らすのが目標です。



OMOIBITO 06

気になる事を聞いてみました!



夢はパティシエ!

Q1 ふたば未来学園に入った理由は何ですか?

火災の訓練はありましたが、地震の訓練はした記憶がありません。東日本大震災が起こった時は、先生から受けた指示に従って、その場その場で動いていました。

Q2 「スペシャリスト」系列の【農業】では、どんな活動をしているのですか?

学校にある大きなキッチンや、畑、温室などでの実習が多いです。先生から指示された通りに動くのではなく、生徒主導でやりたいことを行うことができる授業が多いです。

やりがいがあった
楽しい!



Q3 授業や活動を通して作ったものなどはありますか?

双葉郡の特産品でどんなスイーツが作れるかを考えて、予算などを考慮して、商品化しました。商品化できたスイーツは、私たち生徒が毎日手作りして未来ラボのカフェで売っています!

Q4 探究活動やボランティア活動で助けてくれる人にはどんな人がいましたか?

一番は探究活動のゼミ内の先生です。しかしその他にも学校の先輩やNPO法人の方々、フリーライターの方も支援してくださりました。双葉郡にある復興関連の団体からもたくさんの方が来て、アドバイスしたり手助けしたりしていただいたこともあります。

Q5 双葉郡の理想は何ですか?

双葉郡を象徴する、大きなシンボルがあるといいなと思います。あとは、世界的に知られるいい町になってほしいです。双葉郡にはさまざまな活動を続ける人と町を愛する人がたくさんいるので、必ず誰もが知るようなどこよりもいい町になると思います!